

運用報告書（全体版）

■当ファンドの仕組みは次の通りです。

商品分類	追加型投信／海外／債券	
信託期間	2011年11月14日から2021年8月10日まで	
運用方針	①主として日本を除くアジア（オセアニアを含む）のハイ・イールド債券（米ドル建て等）を実質的な主要投資対象とし、インカムゲインの確保と信託財産の成長を目指します。 ②当ファンドは、原則、相対的に金利水準が高く、成長性が高いと考えられる6通貨の為替取引を行い、為替取引によるプレミアム（金利差相当分の収益）の獲得を目指します。	
主要投資対象	アジア・ハイ・イールド債券ファンド（毎月分配型）成長通貨コース 日興 アジア・ハイ・イールド・ボンド・ファンド（クラス3） 日興 アジア・ハイ・イールド・ボンド・ファンド（クラス4）	投資信託証券 アジア地域の米ドル建てのハイ・イールド債券等 アジア地域の米ドル建てのハイ・イールド債券等
主な組入制限	アジア・ハイ・イールド債券ファンド（毎月分配型）成長通貨コース 日興 アジア・ハイ・イールド・ボンド・ファンド（クラス3） 日興 アジア・ハイ・イールド・ボンド・ファンド（クラス4）	投資信託証券への投資割合には制限を設けません。 外貨建資産への実質投資割合には制限を設けません。 デリバティブの直接利用は行いません。 株式への直接投資は行いません。 有価証券の空売りは行いません。 純資産総額の10%を超える借入れを行いません。 投資信託証券への投資は行いません。 有価証券の空売りは行いません。 純資産総額の10%を超える借入れを行いません。 投資信託証券への投資は行いません。
分配方針	毎決算時に、原則として以下の方針に基づき分配を行います。 ①分配対象額の範囲は、経費控除後の繰越分を含めた利子、配当収入と売買益（評価損益を含みます。）等の全額とします。 ②収益分配金額は、委託会社が基準価額水準、市場動向等を勘案して決定します。ただし、分配対象収益が少額の場合には分配を行わないことがあります。	

※当ファンドが主要投資対象とする投資信託証券の正式名称については後掲「■主要投資対象の投資信託証券の概要」をご覧ください。

アジア・ハイ・イールド債券 ファンド（毎月分配型） 成長通貨コース

第100期	（決算日	2020年3月10日）
第101期	（決算日	2020年4月10日）
第102期	（決算日	2020年5月11日）
第103期	（決算日	2020年6月10日）
第104期	（決算日	2020年7月10日）
第105期	（決算日	2020年8月11日）

受益者のみなさまへ

平素は格別のご愛顧を賜り厚く御礼申し上げます。
さて、「アジア・ハイ・イールド債券ファンド（毎月分配型）成長通貨コース」は、このたび第105期の決算を行いましたので、第100期～第105期中の運用状況をご報告申し上げます。

今後とも引き続きお引立て賜りますようお願い申し上げます。



SOMPOアセットマネジメント

東京都中央区日本橋二丁目2番16号 共立日本橋ビル

URL <https://www.sompo-am.co.jp/>

お問い合わせ先



クライアントサービス第二部 0120-69-5432

（受付時間 営業日の午前9時～午後5時）

○最近30期の運用実績

決算期	基準価額						投資信託券組入比率	純総資産額
	(分配額)	税分	込配	み金	期騰	中落率		
76期(2018年3月12日)	円 6,057			円 60		% △ 0.9	% 96.6	百万円 755
77期(2018年4月10日)		5,867		60		△ 2.1	98.2	717
78期(2018年5月10日)		5,641		60		△ 2.8	98.2	674
79期(2018年6月11日)		5,434		60		△ 2.6	96.9	628
80期(2018年7月10日)		5,226		60		△ 2.7	98.2	582
81期(2018年8月10日)		5,179		60		0.2	97.2	568
82期(2018年9月10日)		4,760		60		△ 6.9	98.4	512
83期(2018年10月10日)		4,906		60		4.3	97.1	526
84期(2018年11月12日)		5,049		60		4.1	97.7	537
85期(2018年12月10日)		5,045		60		1.1	96.7	526
86期(2019年1月10日)		4,886		60		△ 2.0	97.3	484
87期(2019年2月12日)		5,057		60		4.7	97.0	495
88期(2019年3月11日)		5,017		60		0.4	95.8	495
89期(2019年4月10日)		5,064		60		2.1	96.4	502
90期(2019年5月10日)		4,846		60		△ 3.1	96.1	480
91期(2019年6月10日)		4,820		60		0.7	96.5	478
92期(2019年7月10日)		4,891		60		2.7	96.8	482
93期(2019年8月13日)		4,623		60		△ 4.3	97.6	450
94期(2019年9月10日)		4,584		60		0.5	98.5	439
95期(2019年10月10日)		4,533		60		0.2	97.2	424
96期(2019年11月11日)		4,669		60		4.3	97.0	430
97期(2019年12月10日)		4,620		60		0.2	97.7	422
98期(2020年1月10日)		4,731		60		3.7	97.0	424
99期(2020年2月10日)		4,593		60		△ 1.6	98.2	406
100期(2020年3月10日)		4,047		40		△11.0	96.3	356
101期(2020年4月10日)		3,580		40		△10.6	96.5	304
102期(2020年5月11日)		3,627		40		2.4	95.8	308
103期(2020年6月10日)		4,064		40		13.2	96.8	345
104期(2020年7月10日)		3,990		40		△ 0.8	96.8	336
105期(2020年8月11日)		3,901		40		△ 1.2	96.3	328

(注1) 基準価額の騰落率は分配金込み。

(注2) 基準価額及び分配金は1万口当たり(以下同じ)。

(注3) 投資信託証券組入比率は日興 アジア・ハイ・イールド・ボンド・ファンドの組入比率。

(注4) 当ファンドは、日興 アジア・ハイ・イールド・ボンド・ファンドへの投資比率を可能な限り高位に保ちますが、当該投資信託証券のコンセプトに適った指数等が存在しないため、ベンチマークおよび参考指数は記載しておりません。

○当作成期中の基準価額と市況等の推移

決算期	年月日	基準価額			投資信託組入比率	証券率%
			騰	落		
第100期	(期首) 2020年2月10日	円 4,593		% —		% 98.2
	2月末	4,535		△ 1.3		98.5
	(期末) 2020年3月10日	4,087		△11.0		96.3
第101期	(期首) 2020年3月10日	4,047		—		96.3
	3月末	3,519		△13.0		98.1
	(期末) 2020年4月10日	3,620		△10.6		96.5
第102期	(期首) 2020年4月10日	3,580		—		96.5
	4月末	3,667		2.4		96.6
	(期末) 2020年5月11日	3,667		2.4		95.8
第103期	(期首) 2020年5月11日	3,627		—		95.8
	5月末	3,870		6.7		97.1
	(期末) 2020年6月10日	4,104		13.2		96.8
第104期	(期首) 2020年6月10日	4,064		—		96.8
	6月末	3,971		△ 2.3		96.6
	(期末) 2020年7月10日	4,030		△ 0.8		96.8
第105期	(期首) 2020年7月10日	3,990		—		96.8
	7月末	3,957		△ 0.8		96.8
	(期末) 2020年8月11日	3,941		△ 1.2		96.3

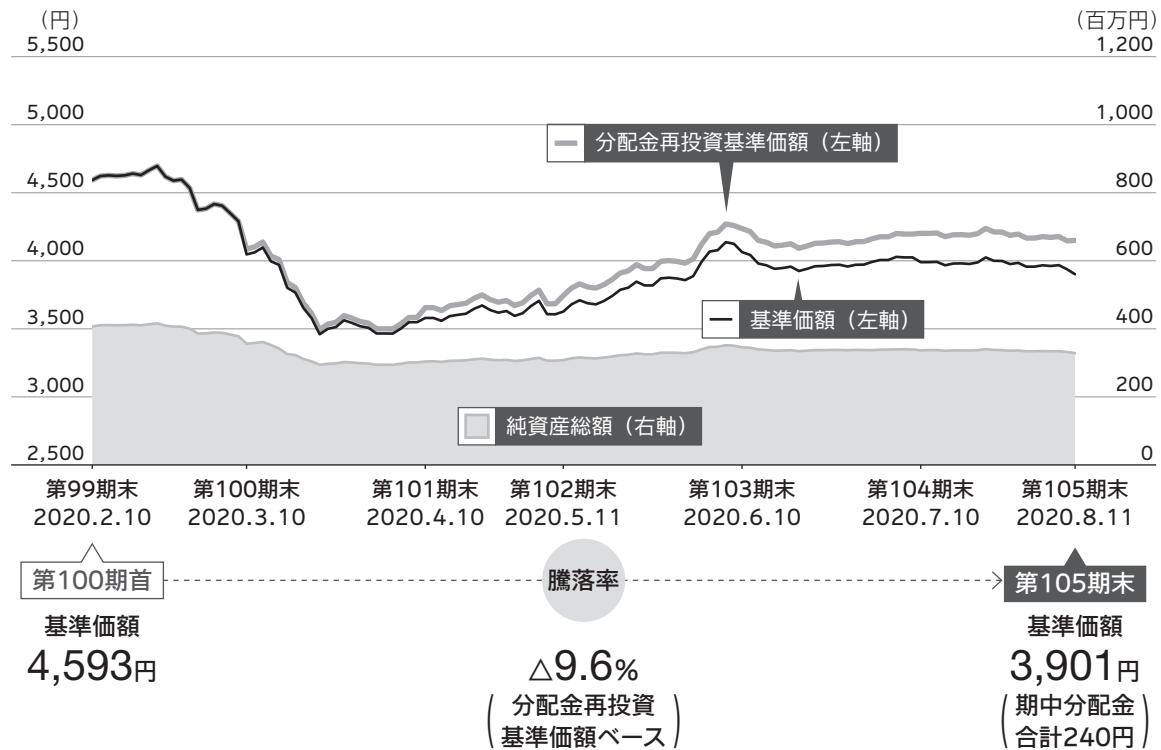
(注1) 期末基準価額は分配金込み、騰落率は期首比。

(注2) 投資信託証券組入比率は日興 アジア・ハイ・イールド・ボンド・ファンドの組入比率。

(注3) 当ファンドは、日興 アジア・ハイ・イールド・ボンド・ファンドへの投資比率を可能な限り高位に保ちますが、当該投資信託証券のコンセプトに適った指標等が存在しないため、ベンチマークおよび参考指標は記載しておりません。

運用経過

● 基準価額の推移



- 分配金再投資基準価額の推移は、2020年2月10日の基準価額をもとに委託会社にて指数化したものを使用しております。
- 分配金再投資基準価額は、収益分配金（税引前）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
- 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入金額により課税条件も異なります。従って、お客様の損益の状況を示すものではありません。
- 当ファンドは、日興 アジア・ハイ・イールド・ボンド・ファンドへの投資比率を可能な限り高位に保ちますが、当該投資信託証券のコンセプトに適った指数等が存在しないため、ベンチマークおよび参考指数は記載しておりません。

● 基準価額の主な変動要因

アジア・ハイ・イールド債券ファンド（毎月分配型） 成長通貨コース

主要投資対象である「日興 アジア・ハイ・イールド・ボンド・ファンド（クラス3）」および「日興 アジア・ハイ・イールド・ボンド・ファンド（クラス4）」は、債券部分はプラスに寄与したもの、為替部分等がマイナスに寄与し、分配金再投資基準価額の騰落率はマイナスとなりました。

- 本報告書では、ベビーファンドとマザーファンド以外のファンドを下記の様に統一して表記しています。

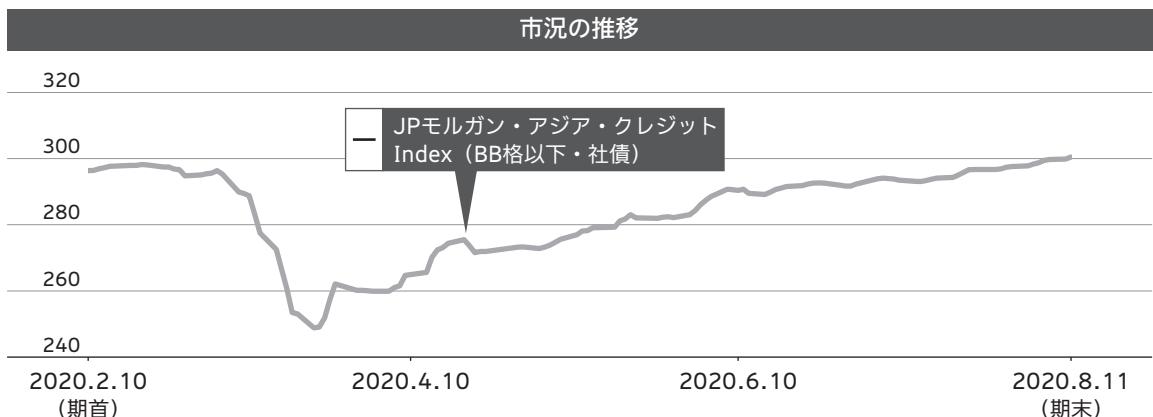
 ベビーファンド  マザーファンド以外のファンド

● 投資環境

当期のアジア・ハイ・イールド債券市場は小幅上昇しました。

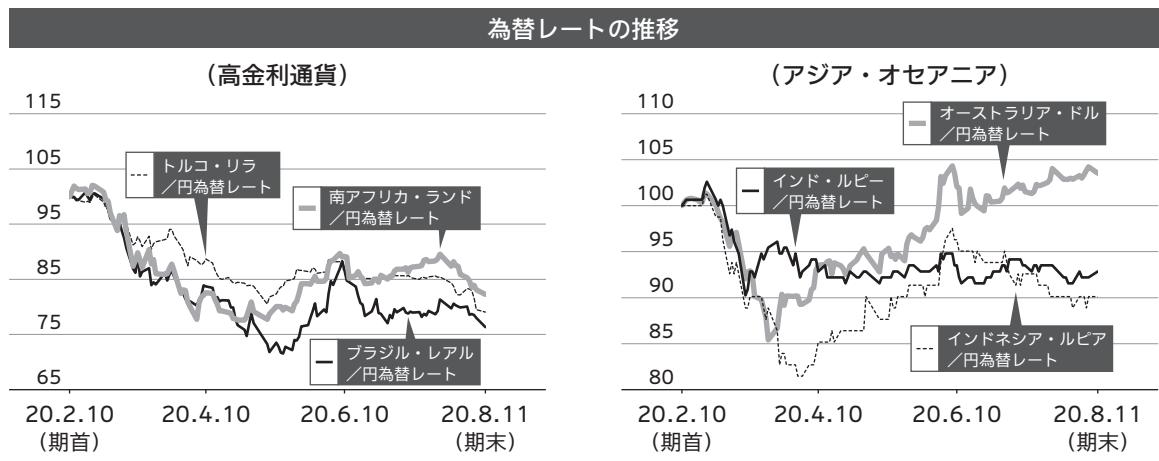
2020年3月以降、新型コロナウイルス感染問題が深刻化したことを受け、感染抑止策等が導入された影響から景気見通しは大幅に悪化しました。リスク回避的な市場環境となったことから、米国金利は低下したものの、アジア・ハイ・イールド債券市場ではクレジットスプレッドが大幅に拡大した結果、下落しました。

4月以降は、徐々に経済活動が再開されたことや、多くの国で財政および金融の両面から政策対応が実施されたことを好感し、クレジットスプレッドが縮小したことから上昇しました。



当期の為替市場は、FRB（米連邦準備理事会）が利下げや量的金融緩和策を実施したことなどから、円高ドル安となりました。

アジア通貨、高金利通貨とともに、2020年2月下旬以降、新型コロナウイルスの感染問題が深刻化し、市場環境がリスク回避的となる中、対円で大きく下落しました。5月以降、相対的に早く経済活動が再開されたことなどを好感し、オーストラリアドルは対円で上昇しました。一方、インドネシアルピアは中央銀行により預金準備率が引き下げられたことを好感し、4月以降は持ち直したもの、期を通じては対円で下落しました。また、ブラジルレアル、南アフリカランド、インドルピーは同ウィルス感染問題が重石となり、対円で軟調に推移しました。また、トルコリラは外貨準備残の減少などが懸念され対円で下落しました。



出所：（ブラジルレアル・トルコリラ）投資信託協会
（南アフリカランド）Bloomberg

（出所：Bloomberg）

注1. 為替レートは対顧客電信売買相場の仲値を使用しております。

注2. 為替レートは期首を100として指数化しております。

● 当該投資信託のポートフォリオ

期を通じて、「日興 アジア・ハイ・イールド・ボンド・ファンド（クラス3）」および「日興 アジア・ハイ・イールド・ボンド・ファンド（クラス4）」への投資比率を概ね均等に維持しました。

日興 アジア・ハイ・イールド・ボンド・ファンド（クラス3）

アジア・ハイ・イールド債券のクレジットスプレッドが拡大した一方、クーポン収入や銘柄選択がプラスに寄与したことなどから、債券部分はプラスに寄与しました。

南アフリカランド、トルコリラ、ブラジルレアルが対円で下落したことから、為替部分はマイナスに寄与しました。

日興 アジア・ハイ・イールド・ボンド・ファンド（クラス4）

アジア・ハイ・イールド債券のクレジットスプレッドが拡大した一方、クーポン収入や銘柄選択がプラスに寄与したことなどから、債券部分はプラスに寄与しました。

オーストラリアドルは対円で上昇した一方、インドネシアルピア、インドルピーが対円で大幅に下落したことから、為替部分はマイナスに寄与しました。

● 当該投資信託のベンチマークとの差異

当ファンドは、日興 アジア・ハイ・イールド・ボンド・ファンドへの投資比率を可能な限り高位に保ちますが、当該投資信託証券のコンセプトに適った指数等が存在しないため、ベンチマークおよび参考指数は記載しておりません。

● 分配金

収益分配金については、基準価額の水準等を勘案し、1万口当たり合計240円の分配を行いました。なお、収益分配に充てなかった収益は、信託財産に留保し、運用の基本方針に基づいて引き続き元本と同一の運用を行います。

分配原資の内訳

(単位：円、1万口当たり・税引前)

項目	第100期 2020.2.11 2020.3.10	第101期 2020.3.11 2020.4.10	第102期 2020.4.11 2020.5.11	第103期 2020.5.12 2020.6.10	第104期 2020.6.11 2020.7.10	第105期 2020.7.11 2020.8.11
当期分配金	40	40	40	40	40	40
(対基準価額比率)	0.979%	1.105%	1.091%	0.975%	0.993%	1.015%
当期の収益	40	40	40	40	40	40
当期の収益以外	—	—	—	—	—	—
翌期繰越分配対象額	7,710	7,733	7,757	7,785	7,809	7,834

注1. 「当期の収益」は「経費控除後の配当等収益」および「経費控除後の有価証券売買等損益」から分配に充当した金額です。また、「当期の収益以外」は「収益調整金」および「分配準備積立金」から分配に充当した金額です。

注2. 円未満は切り捨てており、当期の収益と当期の収益以外の合計が当期分配金（税引前）に合致しない場合があります。

注3. 当期分配金の対基準価額比率は当期分配金（税引前）の期末基準価額（分配金込み）に対する比率で、ファンドの収益率とは異なります。

注4. 投資信託特有の会計処理により、「翌期繰越分配対象額」が基準価額を上回っている場合がありますが、実際に基準価額を超えて分配金が支払われることはできません。

決算期毎にインカム収入※を中心に分配を行うことを目指すファンドです。

※ インカム収入とは、債券の利子収入、為替取引によるプレミアム（金利差相当分の収益）収入等をいいます。

- ・ ファンドに蓄積された過去の運用成果（分配原資）を加味する場合があります。
- ・ 投資対象資産や為替の値動き等により基準価額が下落した場合でも、原則として、インカム収入相当については、分配を行います。

● 今後の運用方針

アジア・ハイ・イールド債券ファンド（毎月分配型） 成長通貨コース

今後も、「日興 アジア・ハイ・イールド・ボンド・ファンド（クラス3）」および「日興 アジア・ハイ・イールド・ボンド・ファンド（クラス4）」への投資比率を概ね均等に保つことにより、信託財産の中長期的な成長を目指します。

日興 アジア・ハイ・イールド・ボンド・ファンド

金融・財政の両面からの強力な政策対応が実施されていることが景気回復のサポートになると考えますが、新型コロナウイルスの感染は引き続き拡大していることなどから景気回復は緩やかなペースにとどまるとしています。中長期的には景気回復に歩調を合わせて、市場環境も徐々に改善すると見込んでいます。当ファンドでは、市場動向を注視しながら引き続きクレジットの質を重視とともに、当面先行きの不透明な市場環境が続く見込みであることを考慮し、価格変動性が高い銘柄等の組み入れを抑制するなど、慎重なポートフォリオ運営を行う方針です。

● 1万口当たりの費用明細

項目	第100期～第105期 2020.2.11～2020.8.11		項目の概要 (a)信託報酬＝各期中の平均基準価額×信託報酬率（年率）×各期の日数 年間の日数 期中の平均基準価額は3,919円です。
	金額	比率	
(a) 信託報酬	20円	0.506%	
(投信会社)	(8)	(0.193)	ファンドの運用の対価
(販売会社)	(12)	(0.297)	購入後の情報提供、運用報告書等各種書類の送付、口座内でのファンドの管理等の対価
(受託会社)	(1)	(0.016)	運用財産の管理、投信会社からの指図の実行等の対価
(b) その他費用	0	0.010	(b)その他費用＝各期中のその他費用 各期中の平均受益権口数
(監査費用)	(0)	(0.010)	監査法人に支払うファンドの監査にかかる費用
(その他)	(0)	(0.000)	信託事務の処理にかかるその他の費用等
合計	20	0.516	

注1．期中の費用（消費税のかかるものは消費税を含む）は追加、解約によって受益権口数に変動があるため、項目の概要の簡便法により算出した結果です。

注2．金額欄は各項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

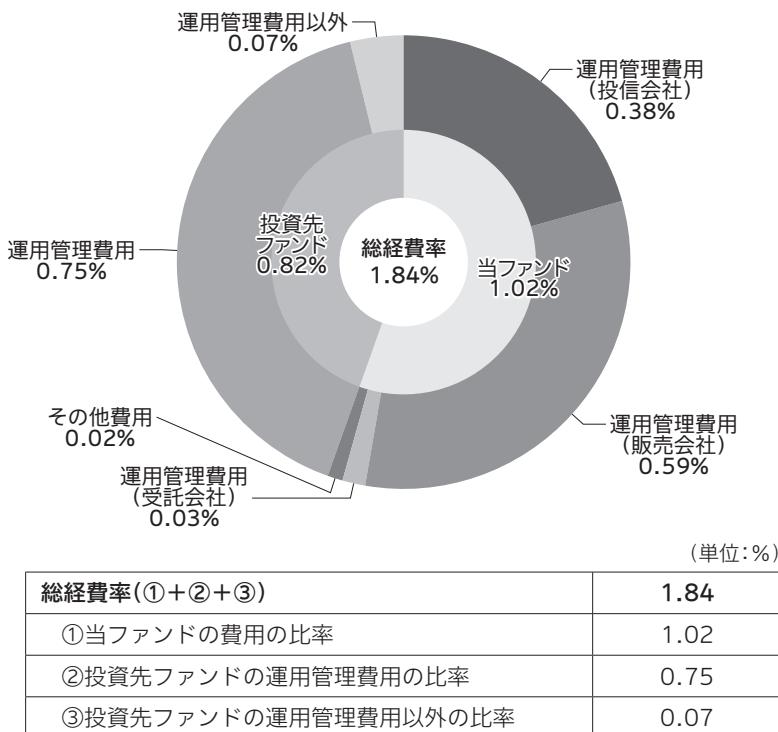
注3．比率欄は「1万口当たりのそれぞれの費用金額」を期中の平均基準価額で除して100を乗じたものです。

注4．各項目の費用は、このファンドが組入れている投資信託証券（マザーファンドを除く。）が支払った費用を含みません。

(参考情報)

○総経費率

期中の運用・管理にかかった費用の総額（原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を除く。）を期中の平均受益権口数に期中の平均基準価額（1口当たり）を乗じた数で除した総経費率（年率）は1.84%です。



注1．当ファンドの費用は1万口当たりの費用明細において用いた簡便法により算出したものです。

注2．各費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を含みません。

注3．各比率は、年率換算した値です。

注4．投資先ファンドとは、当ファンドが組入れている投資信託証券（マザーファンドを除く。）です。

注5．当ファンドの費用は、マザーファンドが支払った費用を含み、投資先ファンドが支払った費用を含みません。

注6．当ファンドの費用と投資先ファンドの費用は、計上された期間が異なる場合があります。

注7．上記の前提条件で算出したものです。このため、これらの値はあくまでも参考であり、実際に発生した費用の比率とは異なります。

○売買及び取引の状況

(2020年2月11日～2020年8月11日)

投資信託証券

銘 柄	第100期～第105期			
	買付		売付	
	口数	金額	口数	金額
国 内	口	千円	口	千円
	NikkoAM Asia Investment Series-NikkoAM AsiaHighYieldBondFund III	37,380	4,000	—
	NikkoAM Asia Investment Series-NikkoAM AsiaHighYieldBondFund IV	—	—	49,303
合計		37,380	4,000	49,303
				14,000

(注1) 金額は受渡代金。

(注2) 単位未満は切捨て。

○利害関係人との取引状況等

(2020年2月11日～2020年8月11日)

該当事項はございません。

利害関係人とは、投資信託及び投資法人に関する法律第11条第1項に規定される利害関係人です。

○組入資産の明細

(2020年8月11日現在)

ファンド・オブ・ファンズが組入れた邦貨建ファンドの明細

銘 柄	第99期末		第105期末		
	口数	口数	評価額	比 率	
NikkoAM Asia Investment Series-NikkoAM AsiaHighYieldBondFund III	1,296,839	1,334,220	142,291	43.3	%
NikkoAM Asia Investment Series-NikkoAM AsiaHighYieldBondFund IV	634,253	584,949	174,172	53.0	
合計	1,931,093	1,919,170	316,464	96.3	

(注) 単位未満は切捨て。

○投資信託財産の構成

(2020年8月11日現在)

項 目	第105期末	
	評価額	比率
投資信託受益証券	千円 316,464	% 95.0
コール・ローン等、その他	16,549	5.0
投資信託財産総額	333,013	100.0

(注) 評価額の単位未満は切捨て。

○資産、負債、元本及び基準価額の状況

項目	第100期末	第101期末	第102期末	第103期末	第104期末	第105期末
	2020年3月10日現在	2020年4月10日現在	2020年5月11日現在	2020年6月10日現在	2020年7月10日現在	2020年8月11日現在
	円	円	円	円	円	円
(A) 資産	360,984,687	307,786,398	312,233,346	349,814,512	341,015,794	333,013,159
コール・ローン等	17,533,382	14,477,651	16,868,316	15,346,085	14,970,326	16,548,905
投資信託受益証券(評価額)	343,451,305	293,308,747	295,365,030	334,468,427	326,045,468	316,464,254
(B) 負債	4,469,063	3,772,673	4,023,598	4,267,677	4,321,428	4,549,974
未払収益分配金	3,523,363	3,396,839	3,398,746	3,401,143	3,375,450	3,367,991
未払解約金	616,530	99,802	353,938	588,285	659,224	878,111
未払信託報酬	323,051	270,098	265,275	272,968	281,356	298,272
未払利息	52	—	48	39	31	33
その他未払費用	6,067	5,934	5,591	5,242	5,367	5,567
(C) 純資産総額(A-B)	356,515,624	304,013,725	308,209,748	345,546,835	336,694,366	328,463,185
元本	880,840,920	849,209,898	849,686,541	850,285,868	843,862,547	841,997,837
次期繰越損益金	△524,325,296	△545,196,173	△541,476,793	△504,739,033	△507,168,181	△513,534,652
(D) 受益権総口数	880,840,920口	849,209,898口	849,686,541口	850,285,868口	843,862,547口	841,997,837口
1万口当たり基準価額(C/D)	4,047円	3,580円	3,627円	4,064円	3,990円	3,901円

(注1) 当作成期間（第100期～105期）における期首元本額885,776,581円、期中追加設定元本額18,030,189円、期中一部解約元本額61,808,933円

(注2) 期末における1口当たりの純資産総額

第100期0.4047円、第101期0.3580円、第102期0.3627円、第103期0.4064円、第104期0.3990円、第105期0.3901円

(注3) 期末における元本の欠損金額

第100期524,325,296円、第101期545,196,173円、第102期541,476,793円、第103期504,739,033円、第104期507,168,181円、第105期513,534,652円

○損益の状況

項目	第100期	第101期	第102期	第103期	第104期	第105期
	2020年2月11日～ 2020年3月10日	2020年3月11日～ 2020年4月10日	2020年4月11日～ 2020年5月11日	2020年5月12日～ 2020年6月10日	2020年6月11日～ 2020年7月10日	2020年7月11日～ 2020年8月11日
(A) 配当等収益	円	円	円	円	円	円
受取配当金	5,730,455	5,643,497	5,644,717	5,747,421	5,746,046	5,750,842
支払利息	5,730,967	5,643,628	5,645,369	5,748,181	5,746,899	5,751,668
(B) 有価証券売買損益	△ 512	△ 131	△ 652	△ 760	△ 853	△ 826
売買益	△ 49,930,238	△ 41,688,107	2,045,062	35,038,578	△ 8,328,979	△ 9,570,617
売買損	64,882	450,296	10,402,766	35,103,396	91,656	13,389
(C) 信託報酬等	△ 329,118	△ 275,996	△ 270,694	△ 278,176	△ 286,607	△ 303,839
(D) 当期損益金(A+B+C)	△ 44,528,901	△ 36,320,606	7,419,085	40,507,823	△ 2,869,540	△ 4,123,614
(E) 前期繰越損益金	△394,682,122	△425,661,161	△464,162,774	△459,089,591	△416,292,739	△420,350,388
(F) 追加信託差損益金	△ 81,590,910	△ 79,817,567	△ 81,334,358	△ 82,756,122	△ 84,630,452	△ 85,692,659
(配当等相当額)	(506,952,854)	(489,190,284)	(489,995,813)	(490,847,279)	(488,149,316)	(487,575,941)
(売買損益相当額)	(△588,543,764)	(△569,007,851)	(△571,330,171)	(△573,603,401)	(△572,779,768)	(△573,268,600)
(G) 計(D+E+F)	△520,801,933	△541,799,334	△538,078,047	△501,337,890	△503,792,731	△510,166,661
(H) 収益分配金	△ 3,523,363	△ 3,396,839	△ 3,398,746	△ 3,401,143	△ 3,375,450	△ 3,367,991
次期繰越損益金(G+H)	△524,325,296	△545,196,173	△541,476,793	△504,739,033	△507,168,181	△513,534,652
追加信託差損益金	△ 81,590,910	△ 79,817,567	△ 81,334,358	△ 82,756,122	△ 84,630,452	△ 85,692,659
(配当等相当額)	(506,952,854)	(489,190,284)	(489,995,813)	(490,847,279)	(488,149,316)	(487,575,941)
(売買損益相当額)	(△588,543,764)	(△569,007,851)	(△571,330,171)	(△573,603,401)	(△572,779,768)	(△573,268,600)
分配準備積立金	172,188,767	167,573,784	169,186,475	171,109,093	170,904,980	172,106,542
繰越損益金	△614,923,153	△632,952,390	△629,328,910	△593,092,004	△593,442,709	△599,948,535

(注1) 有価証券売買損益は期末の評価換えによるものを含みます。

(注2) 信託報酬等には、消費税相当額を含めて表示しております。

(注3) 追加信託差損益金とは、信託の追加設定の際、追加設定をした額から元本を差し引いた差額分をいいます。

(注4) 分配金の計算過程(2020年2月11日～2020年8月11日)は以下の通りです。

項目	2020年2月11日～ 2020年3月10日	2020年3月11日～ 2020年4月10日	2020年4月11日～ 2020年5月11日	2020年5月12日～ 2020年6月10日	2020年6月11日～ 2020年7月10日	2020年7月11日～ 2020年8月11日
a. 配当等収益(費用控除後)	5,401,337円	5,367,501円	5,446,001円	5,708,226円	5,459,439円	5,447,003円
b. 有価証券等損益額(費用控除後)	0円	0円	0円	0円	0円	0円
c. 信託約款に規定する収益調整金	506,952,854円	489,190,284円	489,995,813円	490,847,279円	488,149,316円	487,575,941円
d. 信託約款に規定する分配準備積立金	170,310,793円	165,603,122円	167,139,220円	168,802,010円	168,820,991円	170,027,530円
e. 分配対象収益(a+b+c+d)	682,664,984円	660,160,907円	662,581,034円	665,357,515円	662,429,746円	663,050,474円
f. 分配対象収益(1万口当たり)	7,750円	7,773円	7,797円	7,825円	7,849円	7,874円
g. 分配金	3,523,363円	3,396,839円	3,398,746円	3,401,143円	3,375,450円	3,367,991円
h. 分配金(1万口当たり)	40円	40円	40円	40円	40円	40円

○分配金のお知らせ

	第100期	第101期	第102期	第103期	第104期	第105期
1万口当たり分配金（税込み）	40円	40円	40円	40円	40円	40円

＜分配金をお支払いする場合＞

- ・分配金は、原則として各決算日から起算して5営業日までにお支払いを開始しています。

＜分配金を再投資する場合＞

- ・お手取り分配金は、各決算日現在の基準価額に基づいて、みなさまの口座に繰り入れて再投資しています。

＜課税上の取扱いについて＞

- ・分配金には、課税扱いとなる「普通分配金」と、非課税扱いとなる「元本払戻金（特別分配金）」があります。
- ・分配金落ち後の基準価額が個別元本と同額の場合または個別元本を上回っている場合は、分配金の全額が普通分配金となります。
- ・分配金落ち後の基準価額が個別元本を下回っている場合には、その下回る部分の額が元本払戻金（特別分配金）となります。
- ・元本払戻金（特別分配金）が発生した場合は、収益分配金発生時に個々の受益者の個別元本から当該元本払戻金（特別分配金）を控除した額が、その後の個々の受益者の個別元本となります。
- ・個人の受益者に対する課税
税率は普通分配金について、20.315%（所得税及び復興特別所得税15.315%、並びに地方税5%）です。

※上記は源泉徴収時の税率であり、税率は課税方法等により異なる場合があります。

※少額投資非課税制度「愛称：NISA（ニーサ）」をご利用の場合、毎年、一定額の範囲で新たに購入した公募株式投資信託などから生じる配当所得及び譲渡所得が5年間非課税となります。詳しくは、販売会社にお問い合わせください。

※法人の受益者に対する課税は、税率が異なります。

※上記内容は、税法が改正された場合等には変更になることがあります。

※課税上の取扱いの詳細につきましては、税務専門家または税務署等にご確認ください。

○お知らせ

- ・2020年4月1日の委託者の名称等変更に伴い、委託者名および電子公告の掲載アドレスが変更となるため、信託約款に所要の変更を行いました（2020年4月1日）。

＜参考情報＞組入れ投資信託証券の内容

■主要投資対象の投資信託証券の概要

名称	<p>■日興 アジア・ハイ・イールド・ボンド・ファンド（クラス3） (Nikko AM Asia Limited Investment Series-Nikko AMアジア・ハイ・イールド・ボンド・ファンド（クラス3）)</p> <p>■日興 アジア・ハイ・イールド・ボンド・ファンド（クラス4） (Nikko AM Asia Limited Investment Series-Nikko AMアジア・ハイ・イールド・ボンド・ファンド（クラス4）)</p>				
形態	ケイマン籍外国投資信託（円建て）				
運用の基本方針	<p>①主として、アジア地域の米ドル建てのハイ・イールド債券等に投資します。</p> <p>②原則として以下の通貨で為替取引（対米ドル等）を行います。</p> <table border="1"> <tr> <td>高金利通貨</td><td>クラス3</td></tr> <tr> <td>アジア・オセアニア</td><td>クラス4</td></tr> </table>	高金利通貨	クラス3	アジア・オセアニア	クラス4
高金利通貨	クラス3				
アジア・オセアニア	クラス4				
主な投資制限	<p>①有価証券の空売りは行いません。</p> <p>②純資産総額の10%を超える借入れを行いません。</p> <p>③投資信託証券への投資は行いません。</p>				
決算日	毎年12月31日				
信託報酬等	<p>純資産総額に対して年率0.77%</p> <p>※年間最低報酬額等がかかる場合は、純資産総額等により年率換算で上記の信託報酬率を上回ることがあります。</p> <p>※上記のほか、投資信託証券の設立・開示に関する費用等（監査費用、弁護士費用等）、管理報酬、売買委託手数料、外国における資産の保管等に要する費用、信託財産に関する租税等がかかります。</p>				
申込・解約手数料	ありません。				
投資顧問会社	日興アセットマネジメント アジア リミテッド				

※当ファンドが主要投資対象とする投資信託証券の名称及びその運用会社の名称等は今後変更となる場合があります。

■包括利益計算書

(2019年1月1日から2019年12月31日まで)
アメリカドル

収益

純損益を通じて公正価値で測定される金融資産・負債に係る純利益／損失 (△)	19,050,480
為替差損益	20,626
その他収益	—
収益合計	19,071,106

費用

支払利息	△ 14,978
投資運用報酬	△ 1,183,264
投資運用報酬 払戻料	67,295
管理報酬	△ 69,155
監査報酬	△ 44,316
保管報酬	△ 47,033
受託者報酬	△ 15,705
その他営業費用	△ 62,000
営業費用合計	△ 1,369,156

税引前・分配前利益(損失)	17,701,950
税金	—
税引後・分配前利益(損失)	17,701,950
分配金	△ 25,888,696
税引後・分配後利益(損失)	△ 8,186,746
営業活動による償還可能受益証券の保有者に帰属する純資産の減少	△ 8,186,746

投資信託証券「日興 アジア・ハイ・イールド・ボンド・ファンド」の財務諸表の一部を委託会社にて抜粋・翻訳したものです。

■組入上位銘柄

(2019年12月31日現在)

銘柄名	国・地域	クーポン	償還日	純資産構成比
ZHENRO PROPERTIES GRP 10.5% 28/06/20 USD	中国	10.500%	2020/06/28	3.7%
POWERLONG REAL ESTAT 5.95% 19/07/20 USD	中国	5.950%	2020/07/19	3.4%
JINKE PROPERTIES GRP 8.375% 20/06/21 USD	中国	8.375%	2021/06/20	2.8%
XINHU ZHONGBAO 6% 01/03/20 USD	中国	6.000%	2020/03/01	2.8%
RONSHINE CHINA 11.25% 22/08/21 USD	中国	11.250%	2021/08/22	2.6%
YANGO JUSTICE INTL 9.5% 03/04/21 USD	中国	9.500%	2021/04/03	2.5%
POWERLONG REAL ESTATE 6.95% 17/04/21 USD	中国	6.950%	2021/04/17	2.4%
SMC GBL POWER HLDGS 6.5% VAR PERP USD	フィリピン	6.500%	永久債	2.3%
ZHONGLIANG HLDGS 11.5% 26/09/21 USD	中国	11.500%	2021/09/26	2.3%
REDCO PROPERTIES GRP 13.5% 21/01/20 USD	中国	13.500%	2020/01/21	2.2%

「日興 アジア・ハイ・イールド・ボンド・ファンド」の運用会社である日興アセットマネジメント アジア リミテッドが作成したデータを、委託会社にて翻訳したものです。